

「やっちゃった」ニッサン！

「日産自動車」の無資格検査問題と「神戸製鋼所」のアルミ製品や銅製品の一部の強度などのデータ改ざん問題は、ともに日本の製造業の根幹を揺るがす極めて重大なコンプライアンス違反です。双方とも内部告発と言われておりますが、真相は今後明確になってくるでしょう。

神鋼のデータ改ざん材料を使っている主な企業・省庁

自動車 関連	トヨタ自動車、ホンダ、日産自動車、マツダ、SUBARU、三菱自動車、デンソー、スズキ、ヤマハ発動機、住友電装、タカタ、富士通、矢崎部品 テスラ(米)、GM(米)、ルノー(仏)、グループPSA(仏)、現代自動車(韓)、ダイムラー(独)、ヴァレオ(仏)、ボルボ(スウェーデン)
航空 など	三菱重工業、川崎重工業、IHI、島津製作所、三井造船、NEC、横浜ゴム、コマツ、防衛省 エアバス(欧)、ボーイング(米)、GE(米)、ロールス・ロイス(英)、大韓航空(韓)
電機	ダイキン工業、パナソニック、三菱電機、日立製作所、東芝、堀場製作所、日本電産 インテル(米)
鉄道	JR東日本、JR西日本、JR東海、東京メトロ、阪急電鉄

特に神戸製鋼所のアルミ製品は世界の自動車の2台に1台は使っているそうで、今後の展開によっては、日本経済界の没落につながるかもしれません（上記一覧）。今後を注視していきたいと思います。

私は、開業以来8年以上自動車メーカーの物づくりにおける基本姿勢を、多方面から研究しております。自動車産業は日本産業の中心であり、この業界の発展が、日本の将来に大きく影響してくるからです。

21年前に東京に来てから、プライベートで日産車を、RV車のミストラル、1BOXのエルグランド・ディーゼル車と2台（3台ともディーゼル車）乗り継ぎ、石原慎太郎元都知事による排ガス規制により、泣く泣く改造を重ねたエルグランドを手放しました。その後、子供3人が中学・高校進学でクラブ活動に入り、親と行動を共にしなくなってきたことを機会に、今まで家族のために犠牲にしてきた「運転を楽しむこと」を追求し、保険会社退職により販売協力のしがらみからも解放され、初めて自分の好きな車として、スバル車〔エクシーガ（7名乗り：広い車をとの家族の希望との折衷案から）〕を購入しました。仕事上でもう一台日産のフーガハイブリッドも購入しましたが、比較するまでもなく「運転を楽しむこと」のできる車はスバル車（現在は3台目のアウトバック）でした。

その当時から、自動車メーカーの姿勢を通じて、物づくりの重要性について考えていました

が、当時私が1位と2位に挙げたスバルとマツダは、現在でも独自の発展を遂げており、海外における専門家も含め、極めて評価の高いメーカーとなってきました。この2社は成長すると内外で言い続けていましたが、当時はマニアが乗るスバルと、下取りが異様に低いマツダ地獄の話を散々聞かされ、余り相手にされませんでした。当時は、多くの人がトヨタ・日産・ホンダのハイブリッド車に興味を持っているようでした。

乗る人のことを考えた基本姿勢は「お客様起点」として高く評価できます。マツダも不可能と言われたクリーン・ディーゼル（私は元々トルクの強いディーゼル車が大好きです）の技術を開発しました。多くの欧州車がディーゼル車の排ガスデータを改ざんしたこととは対極にあります。

スバル車に至っては、四輪駆動の分野で世界1の評価をされており、3年前に吹雪の中、新潟往復700キロ単独日帰り出張（午後3時東京発）という強行軍の際、50キロ制限のところを120キロで走破し、研修開始7分前に到着、2.5時間講師を務め、そのまま3時間強をノンストップで東京に戻ってくるという行程で、一度も命の危険を感じることは無く、私を無事に家族のもとに届けてくれました。この時は本当にスバル車に感謝したものです。（今ではこのような無茶はやれませんが！）

それに引き換え、日産社はルノーに買われ、カルロス・ゴーンがCEOとしてやってきて、実施したことと言えば、財務諸表を改善したことだけでした。日産らしさは失われ、数字に追われ、新車発売サイクルも長くなり、社員の求める技術の追求には消極的になり、結果的にコンプライアンス違反に手を染めました。残念です。

余談ですが、数字（締め切り・時間）に追われる仕事に携わっている人は精神疾患にかかり易いようです。金融機関、マスコミなどがその典型ですが、その他にも特に上司からのハラメントなどが無いのに精神疾患にかかる方は、数字に追われている人が多いそうです。

「働き方改革」が求められる中で、本来のあるべき姿が蔑ろにされている気がします。

<参考>

「神戸製鋼グループ 企業理念」

1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します
2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます
3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します

↓神戸製鋼グループ 企業理念の制定について

http://www.kobelco.co.jp/about_kobelco/csr/kaiji/report/2006/pdf/_icsFiles/afieldfile/2006/11/01/02_rinen.pdf

「日産自動車(NISSAN) 企業理念」

日産は、利益ある成長を遂げながら将来に向けて持続可能な企業であることを目指しています。同時に、日産が責任を果たすべき社会の持続可能性にも貢献していきたいと考えています。日産が掲げるビジョン「人々の生活を豊かに」のもと、豊かな社会の実現のために日産ができることを考えながら、「教育への支援」、「環境への配慮」、「人道支援」といった分野を中心に、息の長い企業市民活動を実践していきます。

↓日産自動車株式会社「理念・活動方針」

<http://www.nissan-global.com/JP/CITIZENSHIP/POLICY/>

企業理念は絵に描いた餅ではありません。両社とも経営トップがこの崇高な理念を大切にし、本気で遂行に向けて努力しておれば、今回のようなみっともない事態を招くことは無かったですでしょう。神鋼の製品の調査に、何とあの天下の不正大国である中国までが腰を上げたそうです。

日本の先人たちが築き上げてきた、「日本人は嘘をつかない」「日本人は信用できる」という、最も大きな財産であるジャパン・ブランドを傷つけることは無かったであろうと思うと、本当に残念です。

ここで申し上げたいことは、**<人は罪悪感とは長く同居することはできない>**ということです。人の心にはそれぞれ「良心」が宿っています。ある人はその良心のことを「内在心／神」と表現し、その神様を傷つける行為をしてはならないと教えています。私自身も自分を偽るときは常にこの「良心」が痛んだものです。大企業を辞めて独立してからは、お陰様でこの悩みからは解放されましたが、企業経営というプレッシャーからは未だに開放されていないのが現状です。

日本の大企業の、特に海外との貿易を行っている企業の社会的責任とは、国家として明治維新以降に築き上げてきた「信用」を守り抜くことではないかと考えます。

今後の政府、官僚、大企業の経営者に期待するとともに、我々が出来ることとして、当社の経営ビジョンの一つである、『**全国の中堅中小企業の経営者とその会社で働く社員を元気にし、活性化することを目指します**』を実行していきたいと思います。

我々は今、先人たちが築き上げて引き継がれてきた、過去の遺産で生きています。同時に未来の子孫に対して責任があります。今後は国家を挙げて信頼を失いつつある「ジャパン・ブランド」を回復し、ブラッシュアップしていくことで未来の子孫たちにバトンを繋いでいくこと

が重要です。

2019年4月から元号が変わる予定となりました。新しい世代は其の元号以降に誕生します。彼らが成長した際に、「昭和と平成の生まれの人たちが、この国の未来を奪った」と言われることの無いように、今、この瞬間を大切にしていきたいと思います。